

事例から考える リスクマネジメント

本日の授業内容

1. リスクへの備え
2. もしもリスクが起きてしまったら・・・
3. 私的保障
4. まとめ

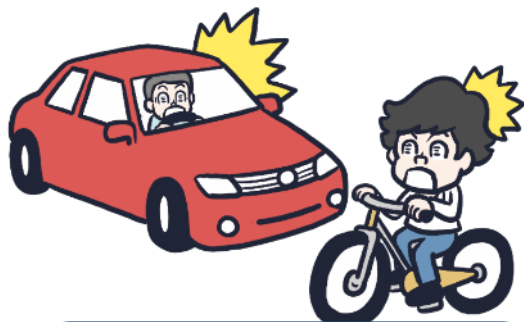
1. リスクへの備え

～ 3つの保障を理解しよう～

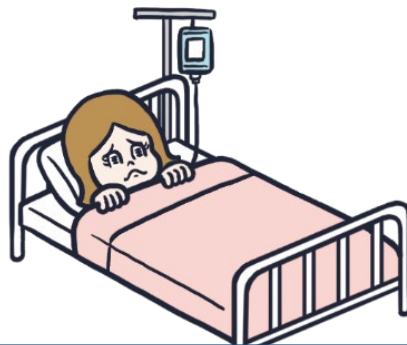
リスクとは何か

リスクとは…

起きてほしくないことで、起きるとお金がかかること



交通事故



病気で入院



自転車の盗難



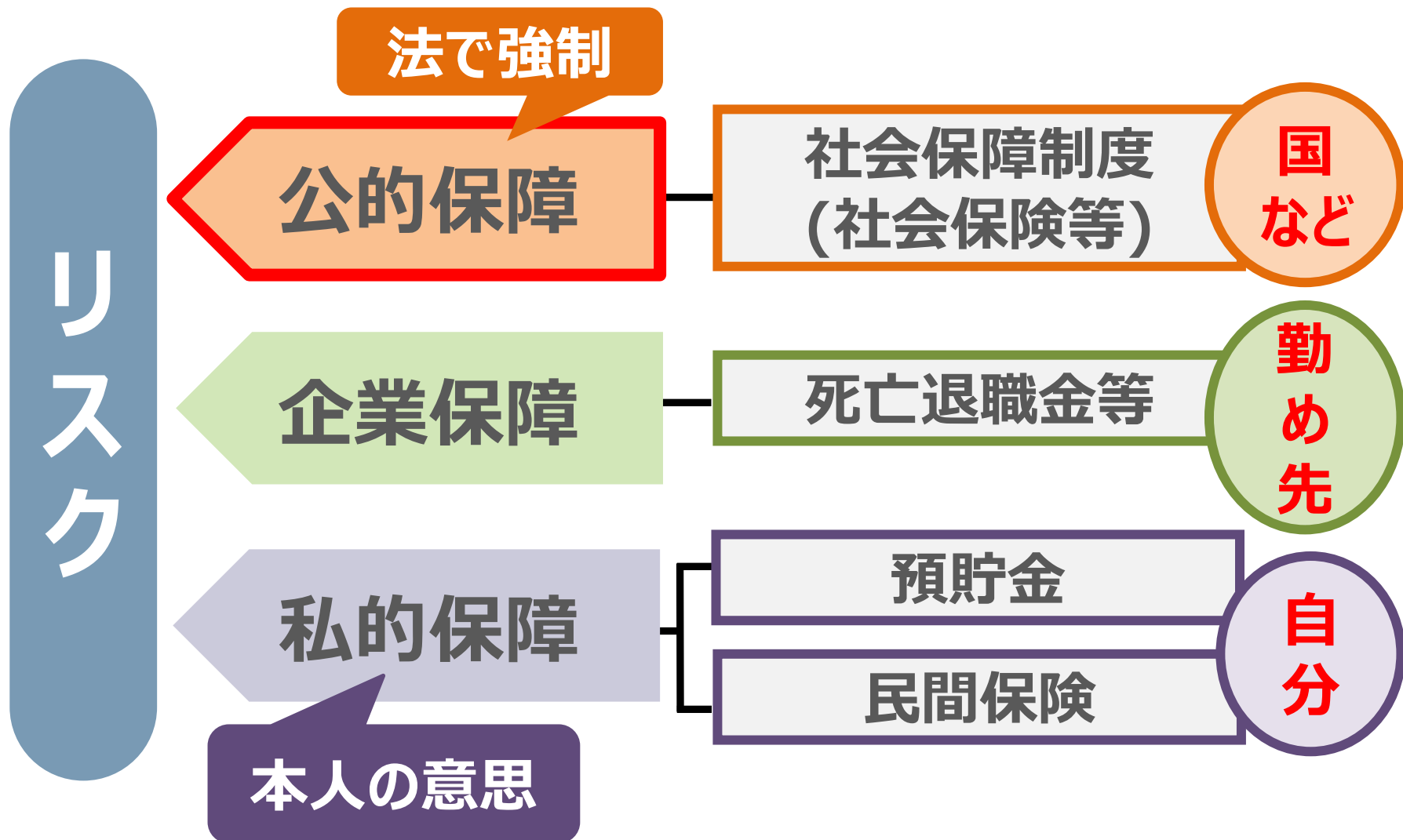
スマホを破損



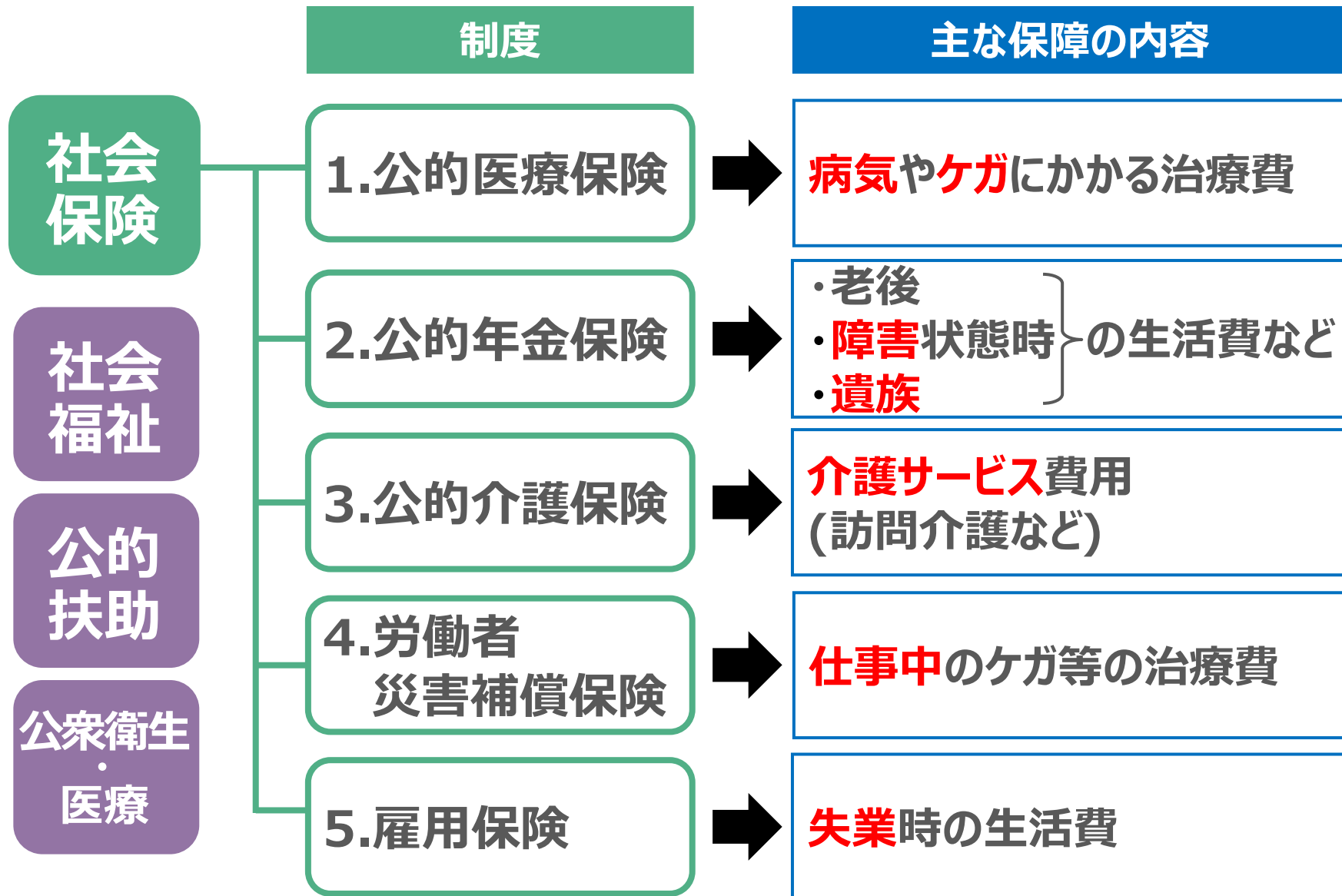
財布を紛失

リスクに備える3つの保障

保障：もしものときに生活を守るもの



社会保障制度の概要



2. もしもリスクが 起きてしまったら・・・

事例①

足の骨折で入院・手術したら

Aさん(23歳)の場合

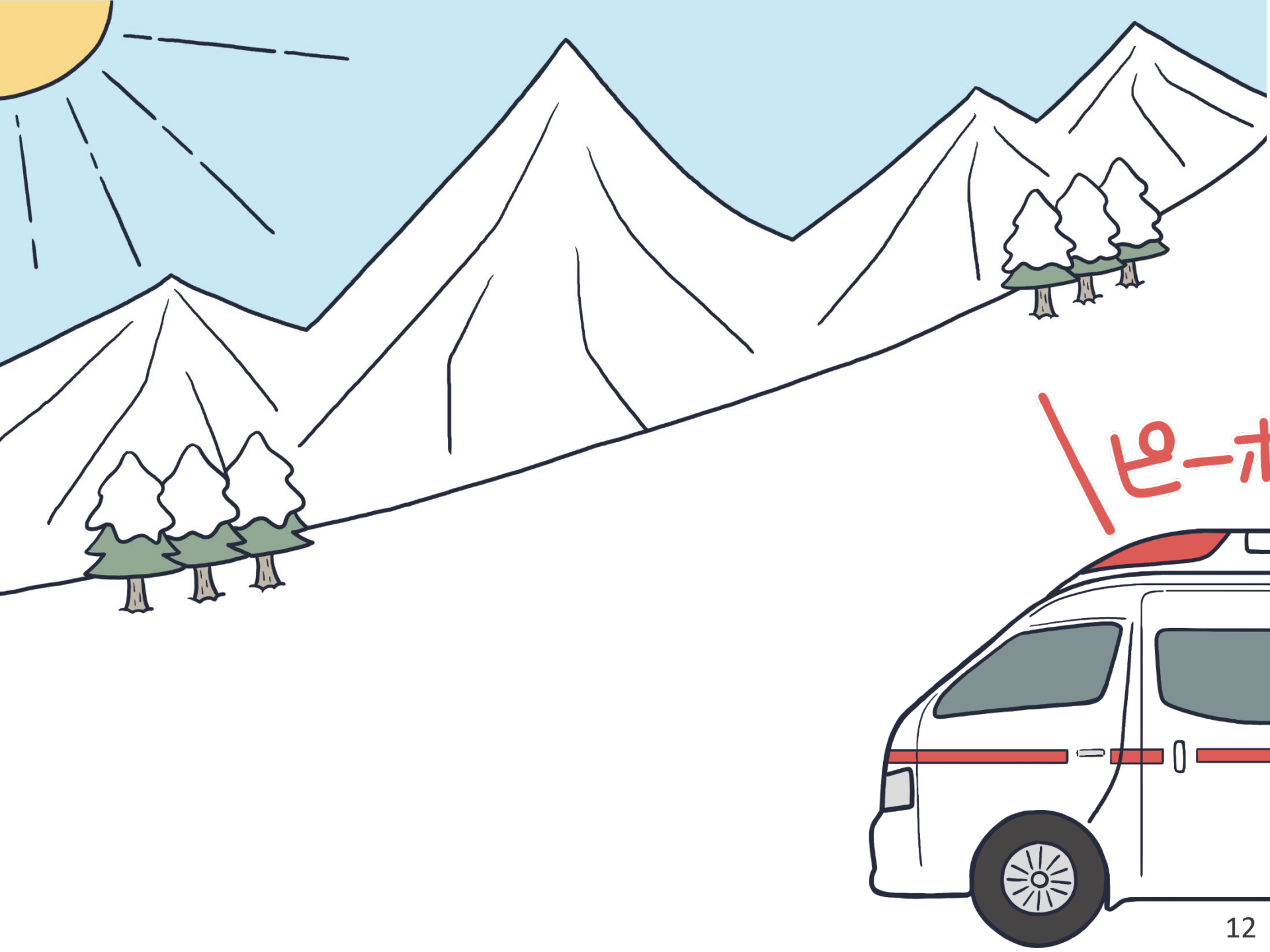


今日は沢山
するぞ〜！



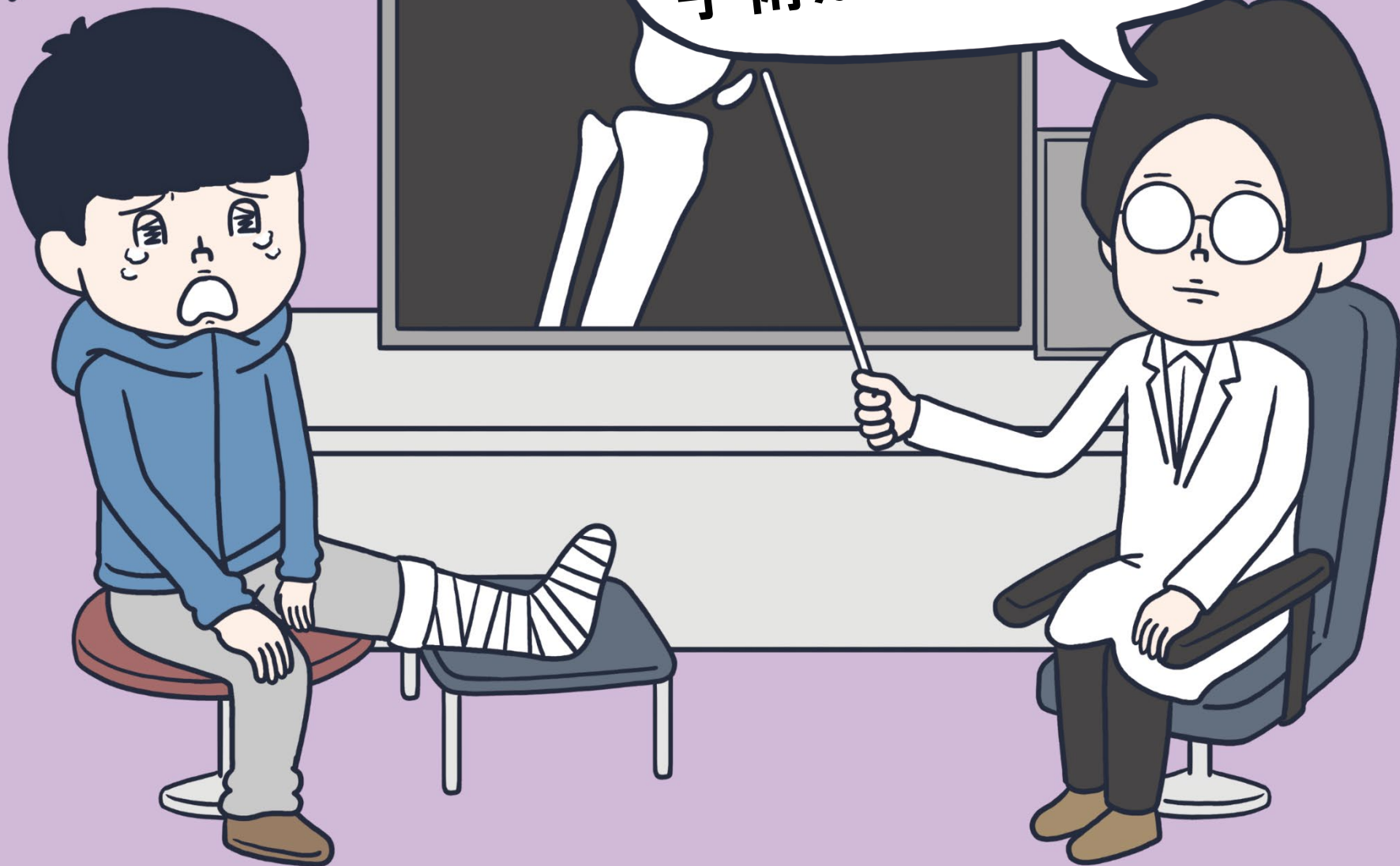






ううっ...

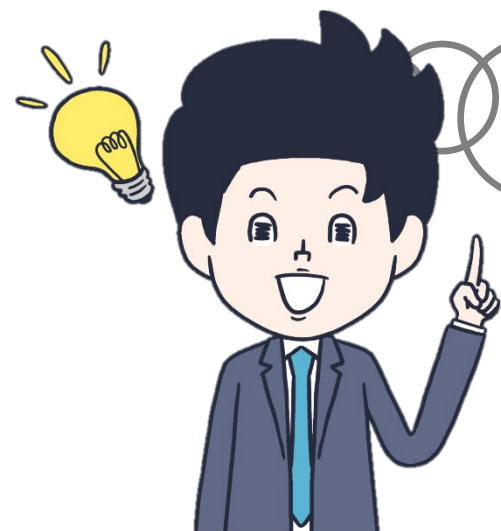
これは...
手術が必要ですねえ



考えてみよう

骨折をしたら・・・
どんなことにお金がかかるか考えてみよう

入院、手術、薬にお金
がかかるかな？入院し
ている間の生活費も
必要？10,000円
くらいかな？



①必要となるお金(事例①)

★足の骨折で手術が必要となり、22日間入院した事例

—

①必要となるお金

かかった医療費	約178万円
その他	約8万円
合計	<u>約186万円</u>

※生命保険文化センター「医療保障ガイド」(2020年9月改訂版)

※その他・・・入院中の衣類・日用品やお見舞いに来た家族の交通費・食費等



②入ってくるお金(事例①)

+

②入ってくるお金

公的保障 (公的医療保険)	約166万円
------------------	--------

合計	<u>約166万円</u>
----	---------------

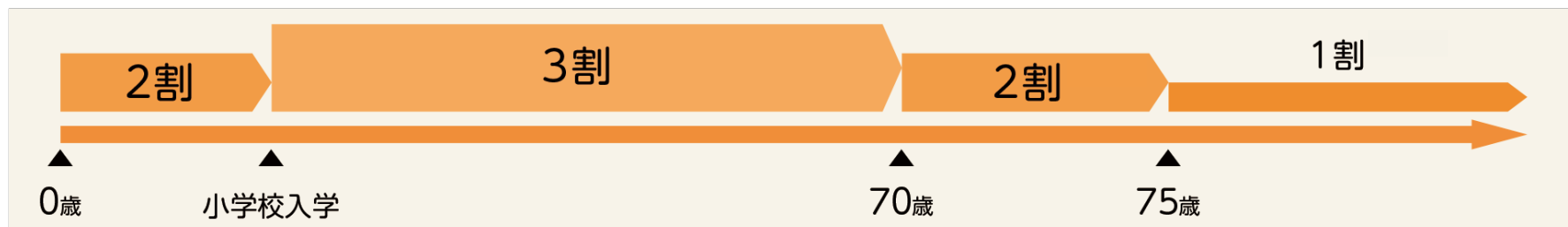
※生命保険文化センター「医療保障ガイド」(2020年9月改訂版)

ケガや病気で入院したときには、国などから受けられる公的保障として、「**公的医療保険**」があります。

②入ってくるお金(事例①)

●公的医療保険（公的保障）

年齢による自己負担の割合



自己負担は原則**3割**(小学校入学後～70歳になるまで)

自己負担が高額な場合は「高額療養費制度」を活用できる

事例の場合、受けられる保障は合計**約166万円**

③自分で準備する必要があるお金(事例①)

「必要となるお金」から「入ってくるお金」を差し引いた金額が自分で「準備する必要があるお金」。



－

①必要となるお金

かかった医療費	約178万円
その他	約8万円

合計	約186万円
----	--------

＋

②入ってくるお金

社会保険 「公的医療保険」	約166万円
------------------	--------

合計	約166万円
----	--------

＝

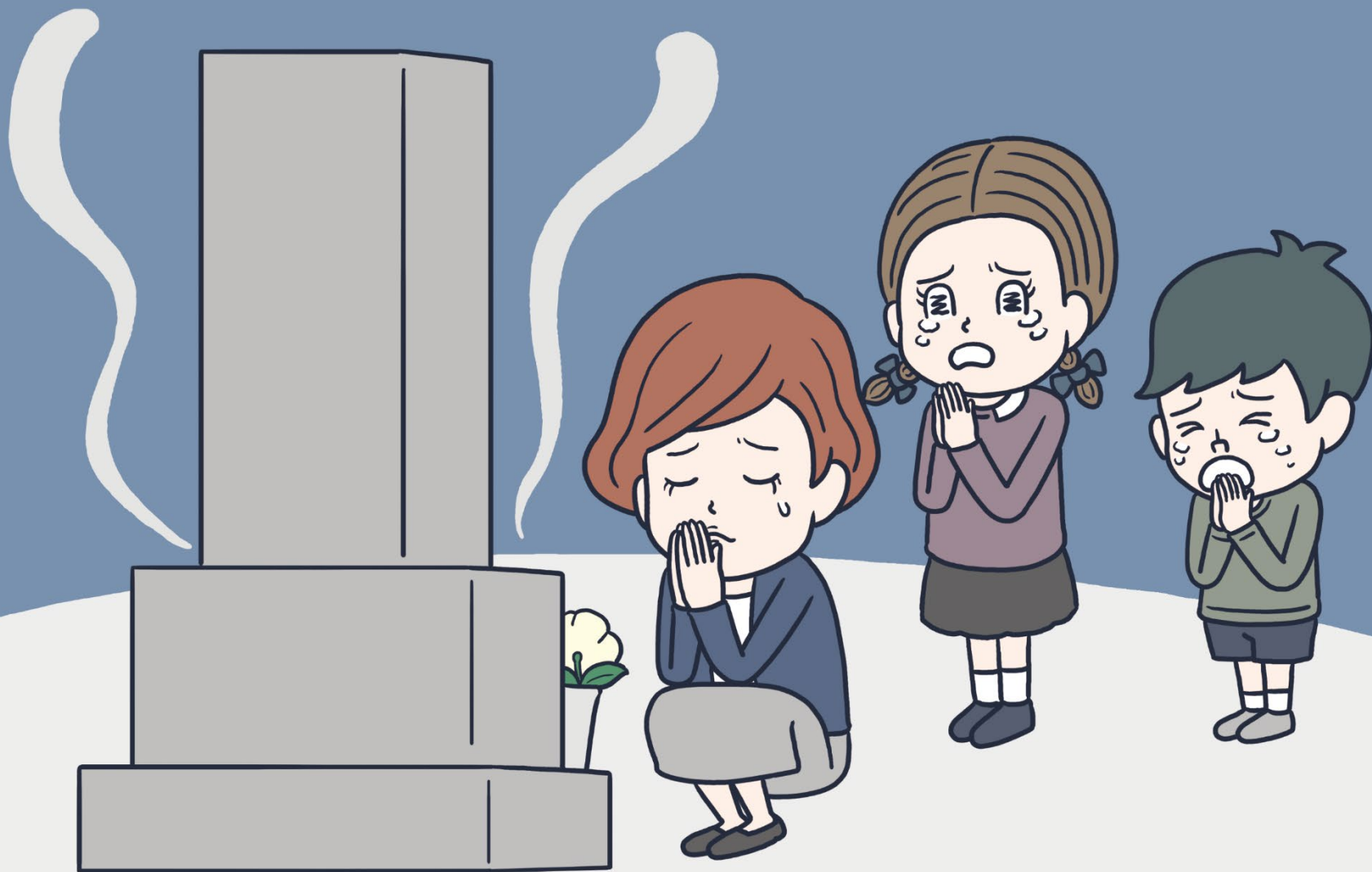
③自分で準備する必要があるお金
約20万円

事例②

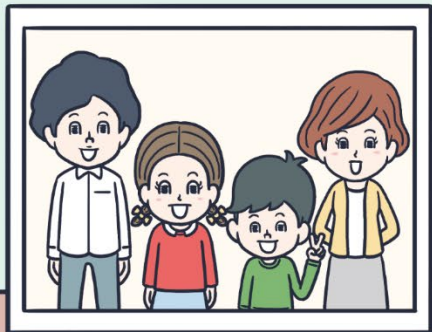
もしも亡くなってしまったら

Bさん(45歳) 妻(42歳)

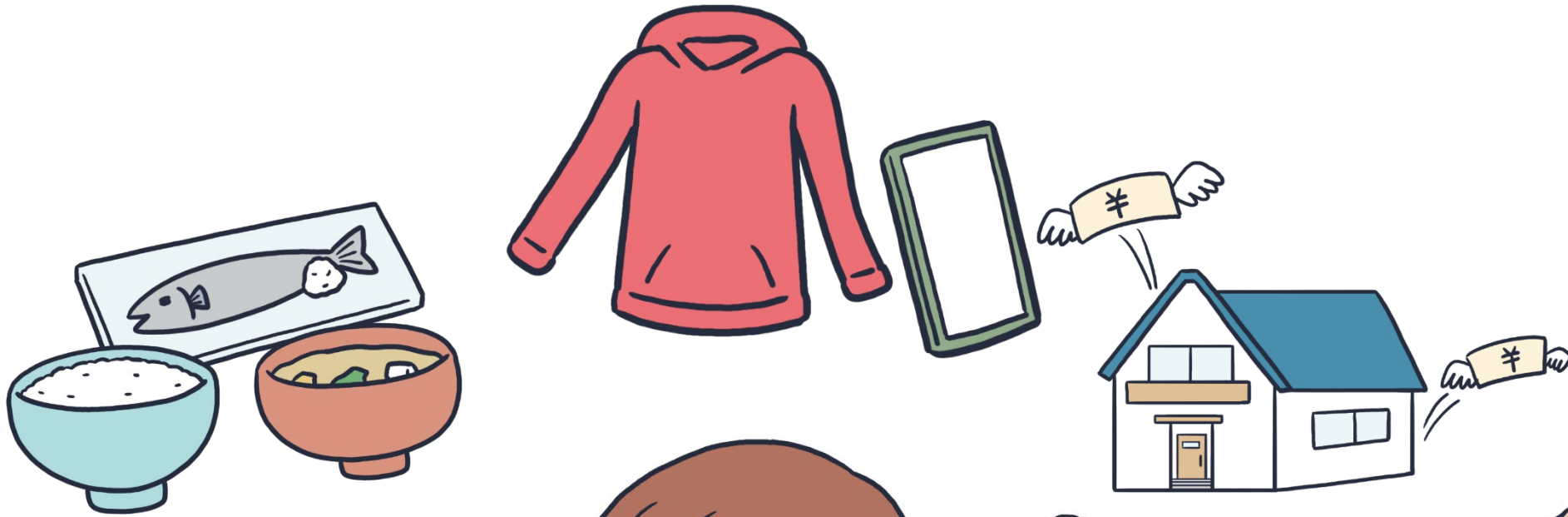
子ども2人の場合



夫の収入が無くなって、
私の収入だけでは...



生活費もあるし

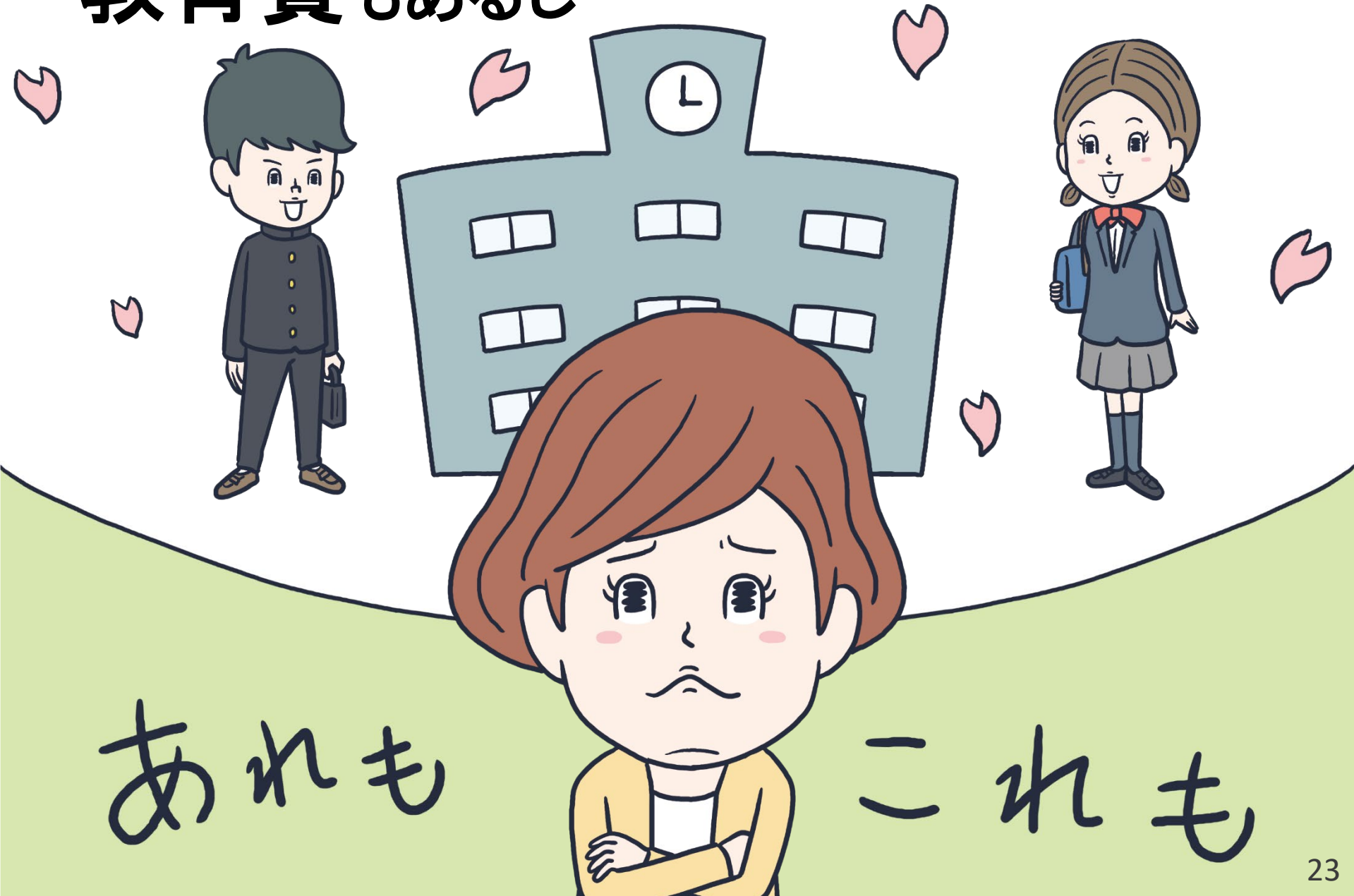


あれも



これも

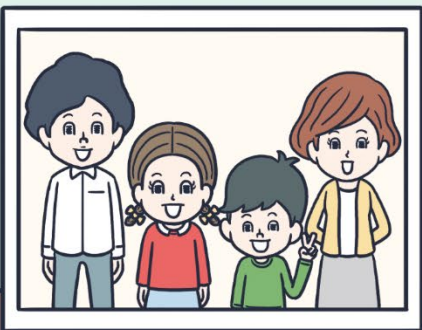
教育費もあるし



あれも

これも

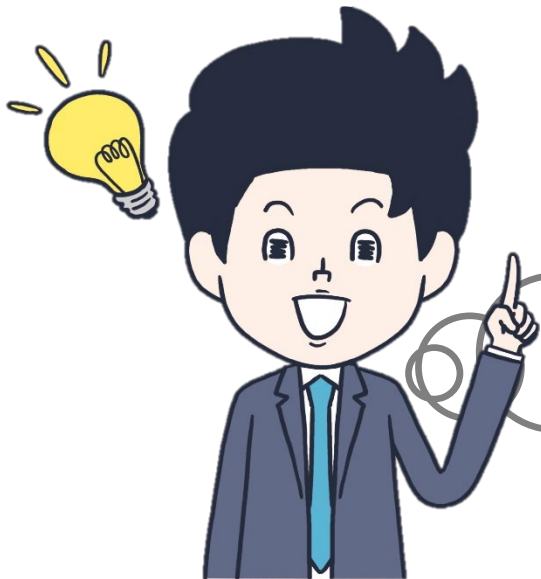
これから一体
いくらかかるのかしら？



考えてみよう

もしもBさんが亡くなってしまったら・・・
「何」に「いくら」かかるか考えてみよう

生活費や教育費・住まい
にかかるお金とかかな？
お葬式のお金も必要？
1,000万円くらい
かかるのかな？



①必要となるお金(事例②)

—

①必要となるお金

生活費	約9,190万円
子どもの教育費	約2,220万円
その他	約1,650万円
合計	約1億3,060万円

※生命保険文化センター「遺族保障ガイド」(2021年12月改訂版)

※その他・・・住居修繕費用や
子ども2人の結婚費用、葬儀費用など



考えてみよう

**必要なお金（約1億3,060万円）は
どうやって準備するか考えてみよう**



**こんな大金どうやって
準備するんだろう？
預貯金で払える金額
なのかな？**

②入ってくるお金(事例②)

+

②入ってくるお金

公的保障 (遺族年金)	約6,190万円
企業保障	約400万円
妻の収入	約2,340万円
合計	約8,930万円

※生命保険文化センター「遺族保障ガイド」(2021年12月改訂版)

国などから受けられる公的保障として
公的年金には、
「遺族年金」があります。

③自分で準備する必要があるお金(事例②)

「必要となるお金」から「入ってくるお金」を差し引いた金額が「自分で準備する必要があるお金」。



—

①必要となるお金

生活費	約9,190万円
子どもの教育費	約2,220万円
その他	約1,650万円

合計	約1億3,060万円
----	------------

+

②入ってくるお金

公的保障	約6,190万円
企業保障	約400万円
妻の収入	約2,340万円

合計	約8,930万円
----	----------

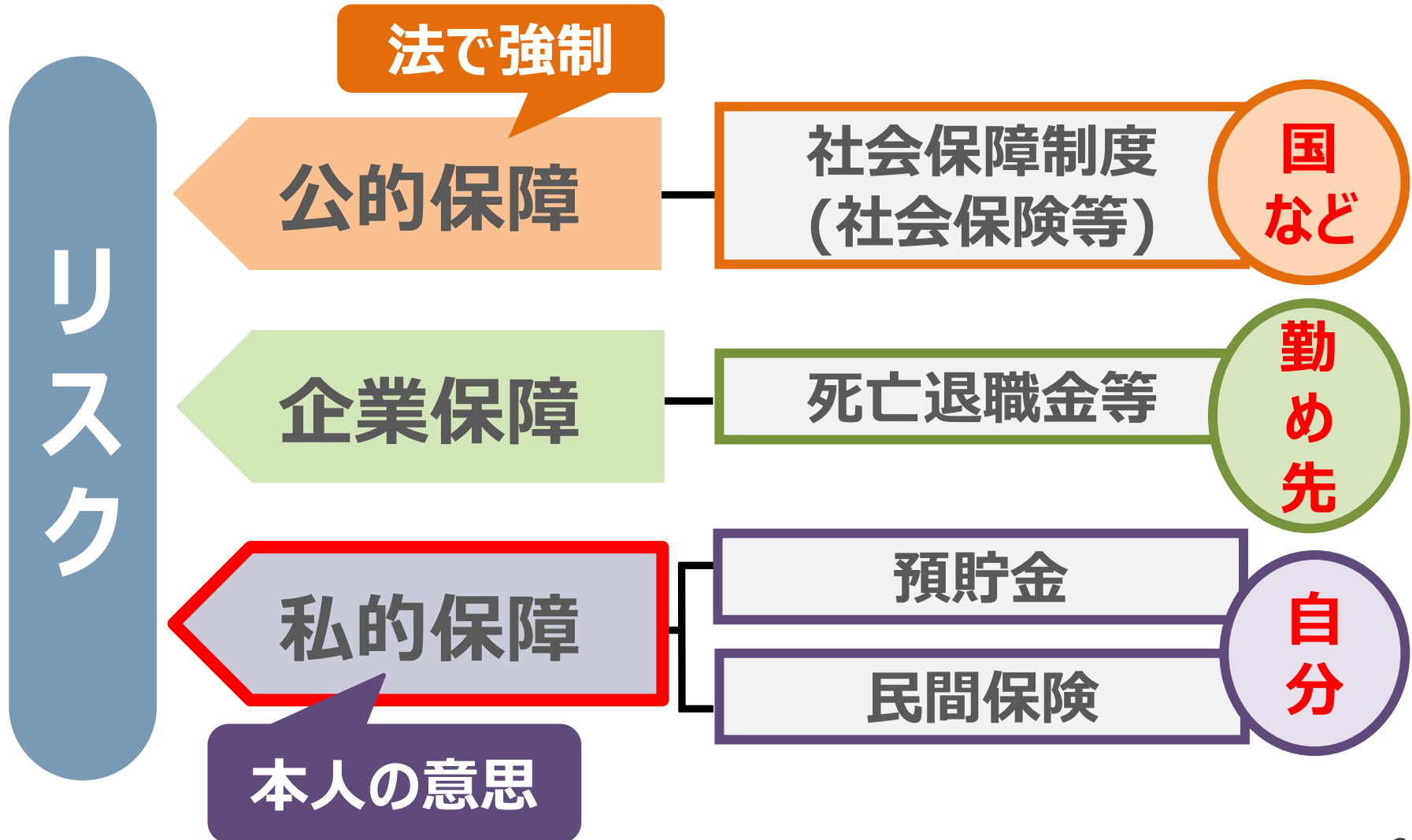
③自分で準備する必要があるお金

=

約4,130万円

リスクに備える3つの保障

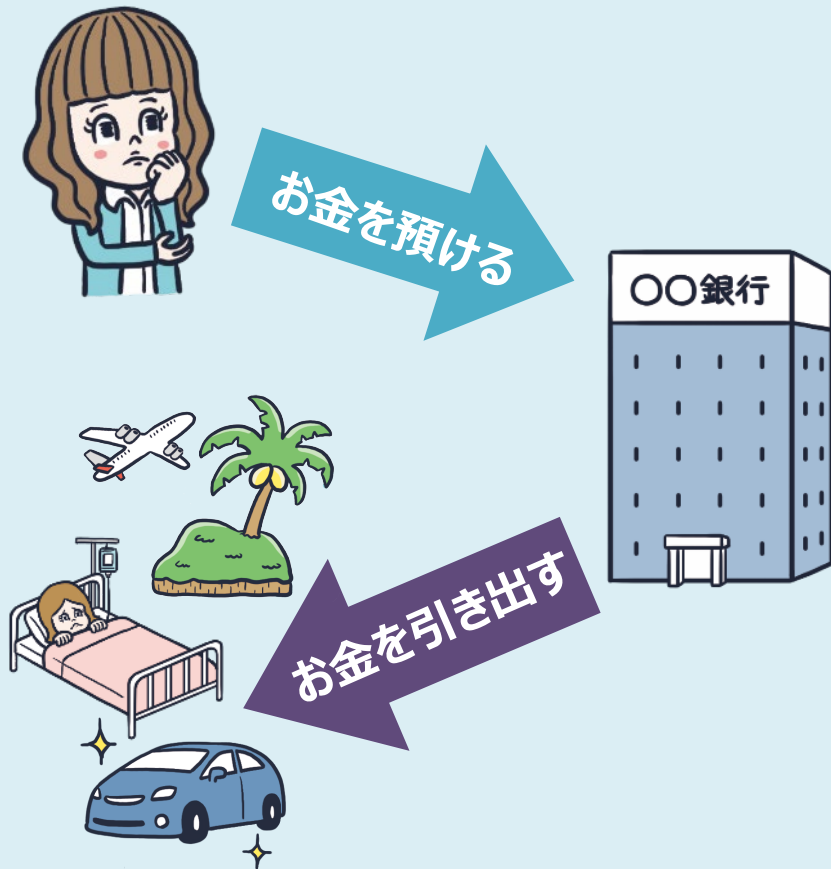
保障：もしものときに生活を守るもの



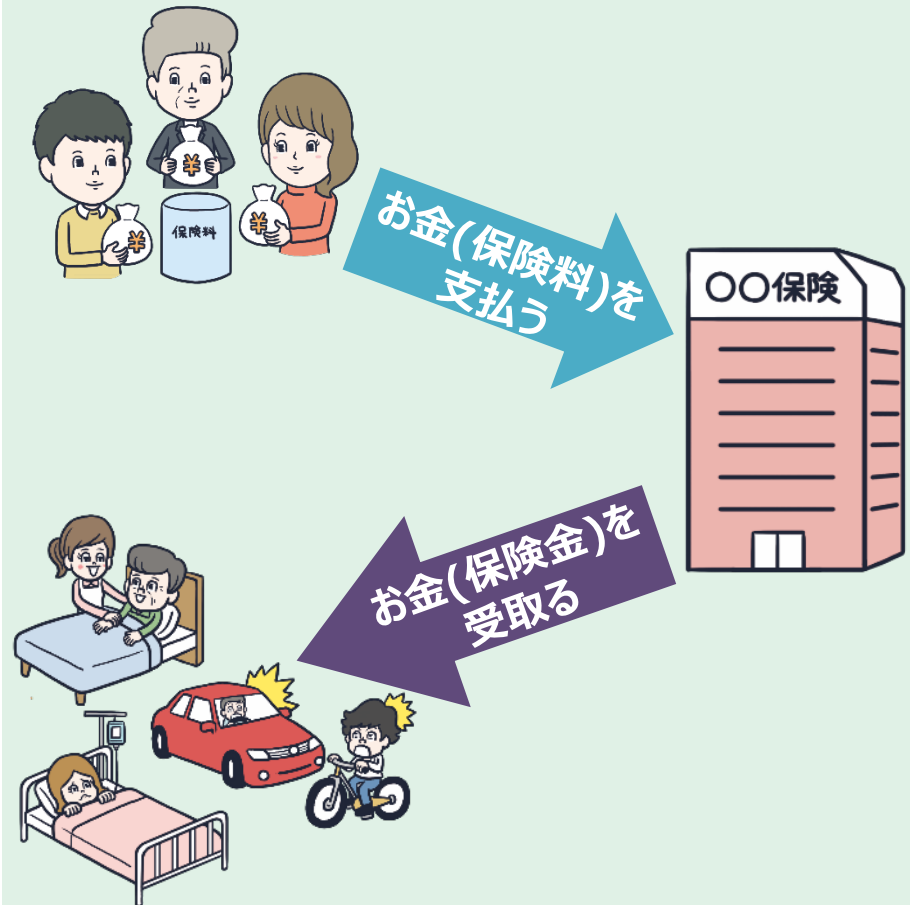
3. 自分で準備する 「私的保障」

預貯金と民間保険①

預貯金



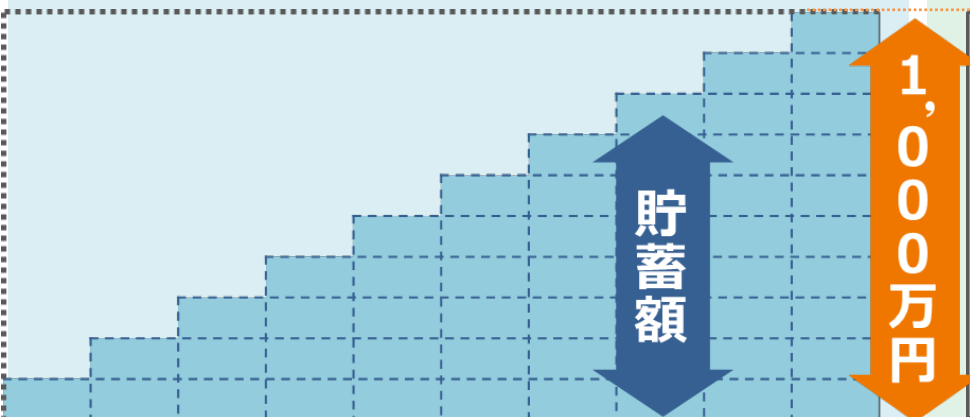
民間保険



預貯金と民間保険②

預貯金

目標額



30歳

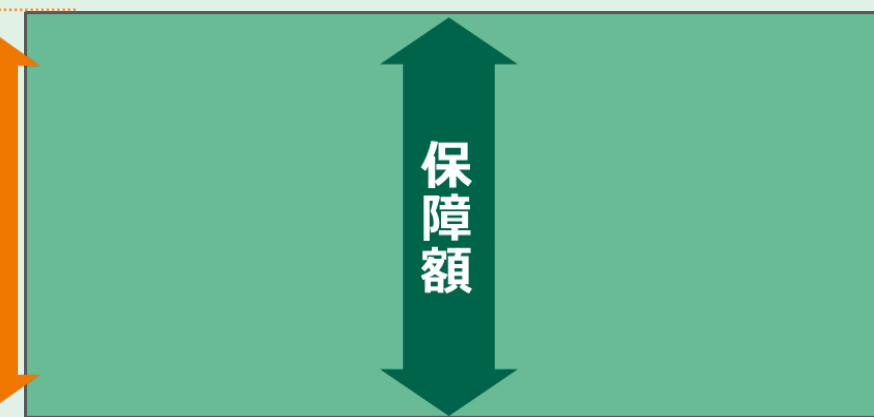
40歳

貯蓄額は毎年100万円（総額1,000万円）

特徴

**さまざまな目的の
ために貯める**

民間保険



30歳

40歳

保険料は毎年約3万円（総額約30万円）

特徴

**特定の損失
に備える**

注 ①預貯金は利子や税金などを考慮しない金額。②保険料は男性（30歳）契約で、保険期間10年、保険金額1,000万円の定期保険の例。実際の保険料は、保険種類や契約内容、生命保険会社によって異なる場合があります。

預貯金と民間保険③

預貯金

メリット

- 貯めたお金は自由に使うことができる
- 途中での引き出しや貯めるペースが自由
- 預けた金額に応じて利子がつく

デメリット

- 途中で病気やケガ等、リスクが発生した場合に、**必要な**金額が貯まっているとは限らない

民間保険

- 途中で病気やケガ等、リスクが発生した場合に、あらかじめ**決められた**金額を受け取ることができる

- 決められた金額を保険料として支払う必要がある（保険の種類によっては一部戻ってくる場合がある）

保険のしくみ①

100人の部員がいる
サッカーチーム



毎年
5人の部員が
骨折を
している



対策をしても
ケガは減らない...



治療にかかる費用は
ひとり10,000円



保険のしくみ②

全員で治療にかかる
費用を準備すれば
よいのでは？



治療にかかる費用は
全員分で
 $10,000\text{円} \times 5\text{人}$
➡ $50,000\text{円}$



$50,000\text{円} \div 100\text{人}$
➡ 500円
ひとり年間



骨折した生徒は
 $10,000\text{円}$ を受け取り、
治療費にあてる

ケガに備えるために……

それぞれが
出し合う費用



×



100人



¥ 10,000

¥ 10,000

¥ 10,000

¥ 10,000

¥ 10,000



骨折した5人は10,000円ずつ受け取り、
治療費を支払える

生命保険と損害保険

生命保険

対象

人

受取額

あらかじめ約束した
金額
(定額給付)

備えられる
リスク

- 死亡
- 病気・ケガ
- 老後
- 介護



など

損害保険

モノ

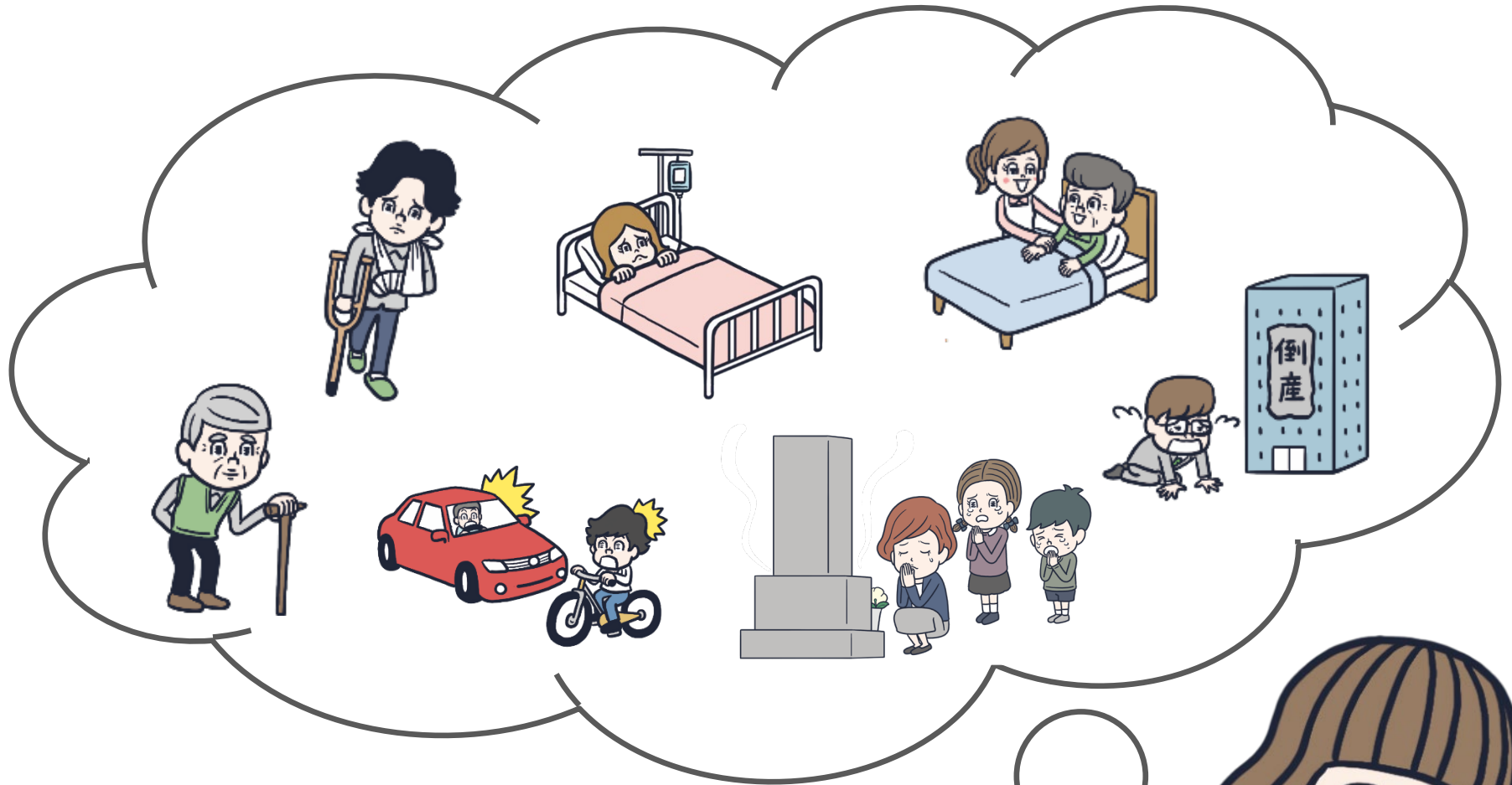
事故により発生した
損害額
じっそんてんば
(実損填補)

- 交通事故
- 火事
- 台風や地震



など

状況に応じたリスクマネジメント



家族構成や年齢などによって、
身の回りにあるリスクは異なります。
状況に応じてリスクへの備えを考えよう。



4. まとめ

まとめ

- ① リスクに対して3つの保障手段で備えることができる。
- ② **公的保障**と企業保障で不足する部分を**私的保障**で補う。
- ③ **預貯金**と**民間保険**にはそれぞれ特徴があり、使い分ける必要がある。
- ④ 家族構成や年齢などによって、身の回りにあるリスクは異なる。
状況に応じて**リスクへの備え**を考えよう。

5. 參考資料

【参考】①必要となるお金（事例①）

●かかった医療費

入院料	約60万円
手術料	約71万円
リハビリテーション料	約16万円
その他（※）	約31万円

※麻酔料・画像診断料など

●その他

見舞時の家族の 交通費・食費など	約4万円
衣類、日用品など 雑費	約4万円

※生命保険文化センター「医療保障ガイド」(2020年9月改訂版)

費用を合計すると約186万円

【参考】②入ってくるお金（事例①）

高額療養費制度とは

医療費の3割を負担すればよいといっても、長期間入院した場合など、自己負担する金額が高額になることがあります。

このような場合、負担が軽くなるように「高額療養費制度」があります。

年代や所得によっても異なりますが、70歳未満で、月収27万円以上51.5万円未満の場合、1か月の医療費の自己負担は約10万円になります。

【参考】①必要となるお金（事例②）

遺族の生活費	長男独立まで	約3,640万円
	長男独立後	約5,550万円
学費	長女	約1,080万円
	長男	約1,140万円
結婚資金		約180万円
住宅修繕費用		約610万円
葬儀費用		約460万円
相続費用		約100万円
予備費用		約300万円

※生命保険文化センター「遺族保障ガイド」(2021年12月改訂版)

※遺族の生活費は長男独立までは現在の生活費（27万円）の7割、長男独立後は5割で計算。

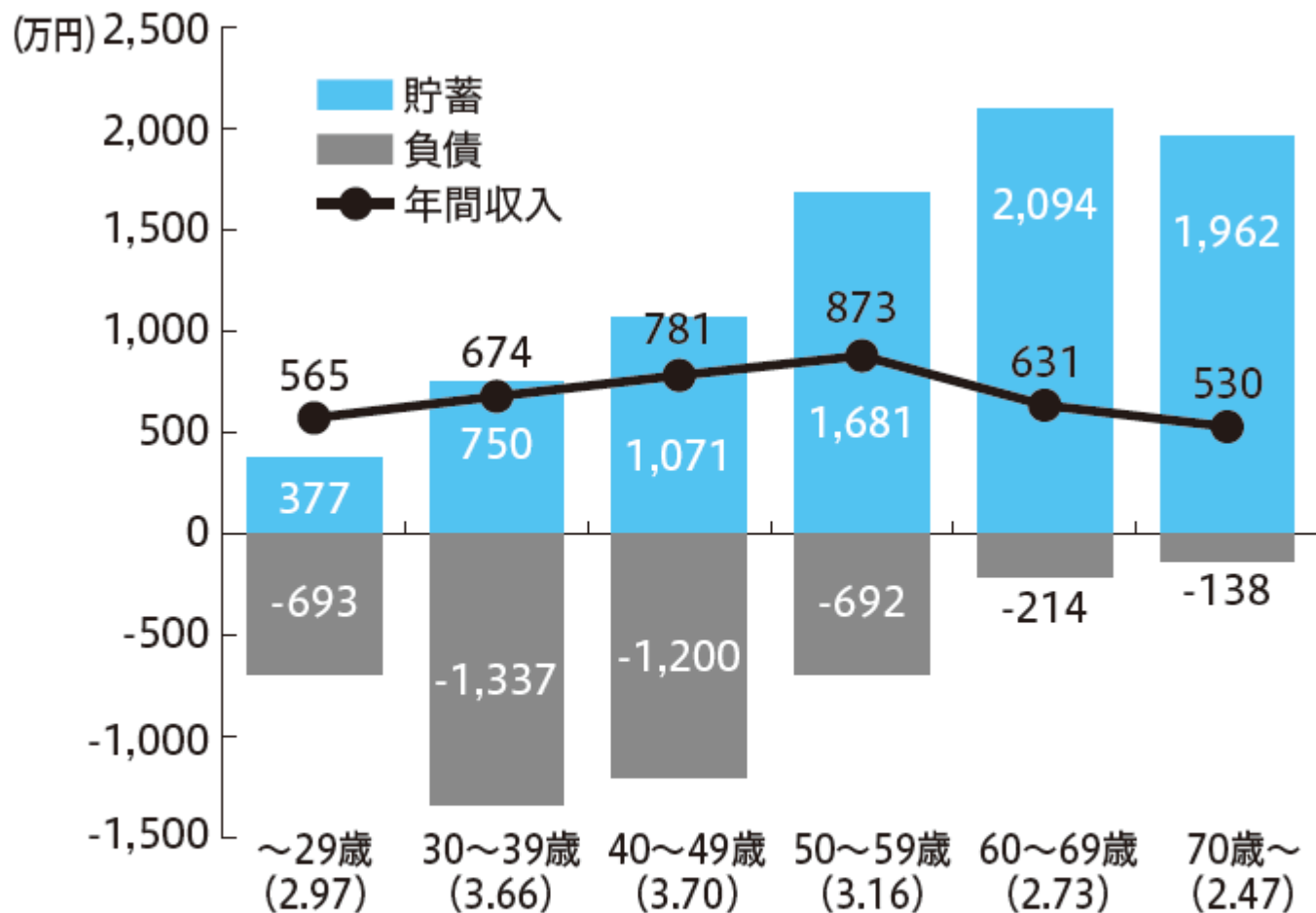
妻は長男独立時の年齢の平均余命までとしている。

※学費は高校まで国公立、大学は私立文系に自宅から通った場合の金額。

費用を合計すると約1億3,060万円

【参考】①必要となるお金（事例②）

●年代別平均貯蓄額・負債額



注 ①二人以上の世帯のうち勤労者世帯。

②世帯主年齢のカッコ内は平均世帯人数を表す。

＊総務省「家計調査年報」(2020年平均)

【参考】②入ってくるお金（事例②）

●Bさんの場合

公的保障 (遺族年金)	長女10～18歳まで	約1,550万円
	長男17～18歳まで	約300万円
	妻53～64歳まで	約1,290万円
	妻65～89歳まで	約3,050万円
企業保障（死亡退職金など）		約400万円
妻の収入（130万円×妻60歳まで）		約2,340万円

収入を合計すると約8,930万円

遺族年金

公的年金の給付の1つ。亡くなった人によって生計を維持されていた遺族に支払われる年金です。受け取る金額は子供の人数や妻の年齢、亡くなった方の収入などによって異なります。

【参考】病気やケガなどに備える生命保険

「医療保険」

①入院給付金
(入院した場合に受け取れるお金) 日額●●円 × 入院した日数

②手術給付金
(手術した場合に受け取れるお金) 日額●●円 × 手術の種類に応じた倍率(10・20・40倍)

Aさんの事例

22日間、入院した場合に1日「7,000円」が受け取れる「医療保険」に入っていたら

①入院給付金(入院した場合に受け取れるお金)
「7,000円」× 22日 = 15.4万円

②手術給付金(手術した場合に受け取れるお金)
「7,000円」× 10倍の場合 = 7万円

① + ② =
22.4万円
が受け取れる

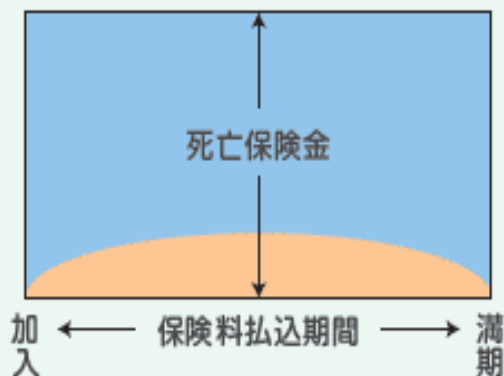
「がん」で入院した場合など、特定の病気に特化した
「医療保険」もあります。

【参考】死亡に備える生命保険①

「定期保険・養老保険・終身保険」

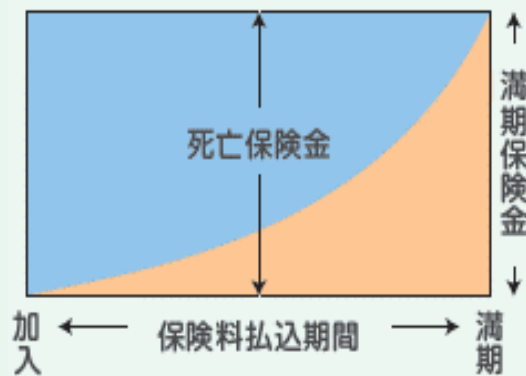
定期保険

保険期間は一定で、その間に死亡した場合に死亡保険金が受け取れる。



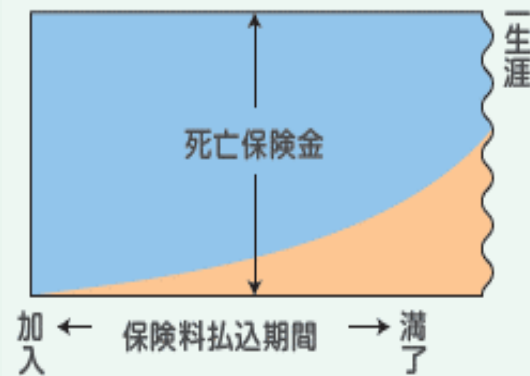
養老保険

保険期間は一定で、その間に死亡した場合に死亡保険金を、無事に満期を迎えたときには満期保険金を受け取れる。



終身保険

死亡保障が一生続き、死亡したときに死亡保険金を受け取れる。



※  は、将来の保険金の支払いに備えて積み立てられる部分を表しています。

種類によって備えることができる期間や
保険料の金額が異なります。

【参考】死亡に備える生命保険②

保険料の違い

条件

- 30歳契約、死亡保険金は1,000万円
- 定期保険、養老保険の保険期間は30年(60歳になるまで)、終身保険は一生涯
- 保険料払込期間は30年(60歳になるまで)

	定期保険		養老保険		終身保険	
性別	男性	女性	男性	女性	男性	女性
保険料	3,600円	2,800円	2.99万円	2.97万円	2.77万円	2.69万円
払込総額	128万円	102万円	1,075万円	1,067万円	996万円	969万円
60歳時の受取り	0万円	0万円	満期保険金 1,000万円	満期保険金 1,000万円	解約した場合の 解約返戻金 904万円	解約した場合の 解約返戻金 885万円

※保険料は月払で、生命保険会社または契約の内容によって異なります。

※生命保険文化センター「遺族保障ガイド」（2021年12月改訂）

**保険料や受け取れる金額など、
保険の種類によって特徴があります。
しっかりと理解して契約しましょう。**